

期間 26年 11月28日(金)～27年 2月6日(金) [全5回]

応募締切
26年 11月14日(金)実施場所 九州国際大学地域連携センター(サテライト・キャンパス)
〒806-0021 八幡西区黒崎3-15-3 コミュニティ2階 (38ページ地図参照)申込・問合せ先 九州国際大学地域連携センター 担当：今井・片山
〒806-0021 八幡西区黒崎3-15-3 TEL：631-2203 FAX：631-2204

時間 18:00～20:00

定員 30名

受講料 4,000円

コース概要

実施機関：九州国際大学地域連携センター

「Korea」は、国際貿易が盛んだった高麗(コリョ)を訪れた西域商人が「コリア」と呼んだことに始まるとされています。936年に誕生した再統一国家「高麗」は、中原を支配した巨大国家と争い、懐柔し、従属することで450年余りの歴史を築きました。その間、仏教文化や漢文学、磁器工芸を発展させ、朝鮮半島に現存する最古の歴史書「三国史記」を完成させました。

この講座では、高麗の始まりに焦点をあてた『太祖王建』、「元」支配下の高麗を描いた『奇皇后』、高麗末期の親元派と親明派の対立の中で、後に初代朝鮮国王となる李成桂に協力した儒学者を取り上げた『鄭道伝』など、これらの歴史ドラマを題材に「動の高麗」と「静の朝鮮」を明らかにします。

月 日	テーマ・内容	担当講師
11月28日 (金)	<p>『太祖王建』</p> <p>9世紀末、新羅の国力が衰え、後三国時代に突入した。王建(ワンゴン)は後高句麗を建国した弓裔の暴政に反旗を翻し、「高麗」を建国。935年に新羅を併合、翌年には後百済を滅ぼして半島を再統一した。その後450年余り、中原では宋・遼・金、元が覇権を争う時代状況のなか、帰化人を登用し国際貿易を行い、思想・文学・芸術など後世に残る文化を開花させた高麗時代を紐解きます。</p>	九州国際大学 教授 森脇 喜一
12月12日 (金)		
1月9日 (金)	<p>『奇皇后』</p> <p>13世紀末から14世紀中頃にかけて東アジアに君臨した王朝・元。この強大な国家にあって、第15代皇帝・順宗の皇后となった「奇皇后」。高麗の貢女から皇后にまで上り詰めた奇皇后の生涯を通じて、大帝国・元と高麗の関係を紐解きます。</p>	
1月23日 (金)		
2月6日 (金)	<p>『鄭道伝』</p> <p>時代が高麗から朝鮮に移行する時期、半島では親元派と親明派が鋭く対立した。親明派勢力の中心人物として、後に初代朝鮮国王となる李成桂に協力した儒学者「鄭道伝」(1342年～1398年)の思想・哲学を通じて、高麗と朝鮮の違いを明らかにします。</p>	